

第3回いわての森林づくり県民税事業評価委員会

日 時：令和6年9月24日（火）15：30～17：00
場 所：マリオス18階 会議室183、184、185

次 第

1 開 会

2 議 題

第4期終了後のいわての森林づくり県民税のあり方について

3 そ の 他

4 閉 会

いわての森林づくり県民税事業評価委員会委員名簿

(令和6年9月24日現在)

氏名	役職名等	備考
稲村 崇史	有限会社稲村製材所 取締役	
國崎 貴嗣	岩手大学農学部 教授	
斎藤 健吾	株式会社斎藤商事 代表取締役	
佐藤 貴美子	いわての森林づくりコーディネーター	
野口 麻穂子	国立研究法人森林研究・整備機構 森林総合研究所東北支所 主任研究員	御欠席
三浦 奈緒美	岩手県消費者団体連絡協議会 常任幹事	
水野 匠	岩手県商工会議所連合会 事務局長	御欠席
村中 ゆり子	盛岡市立米内幼稚園 前園長	
吉野 英岐	岩手県立大学総合政策学部 教授	
若生 和江	環境アドバイザー	御欠席

(五十音順)

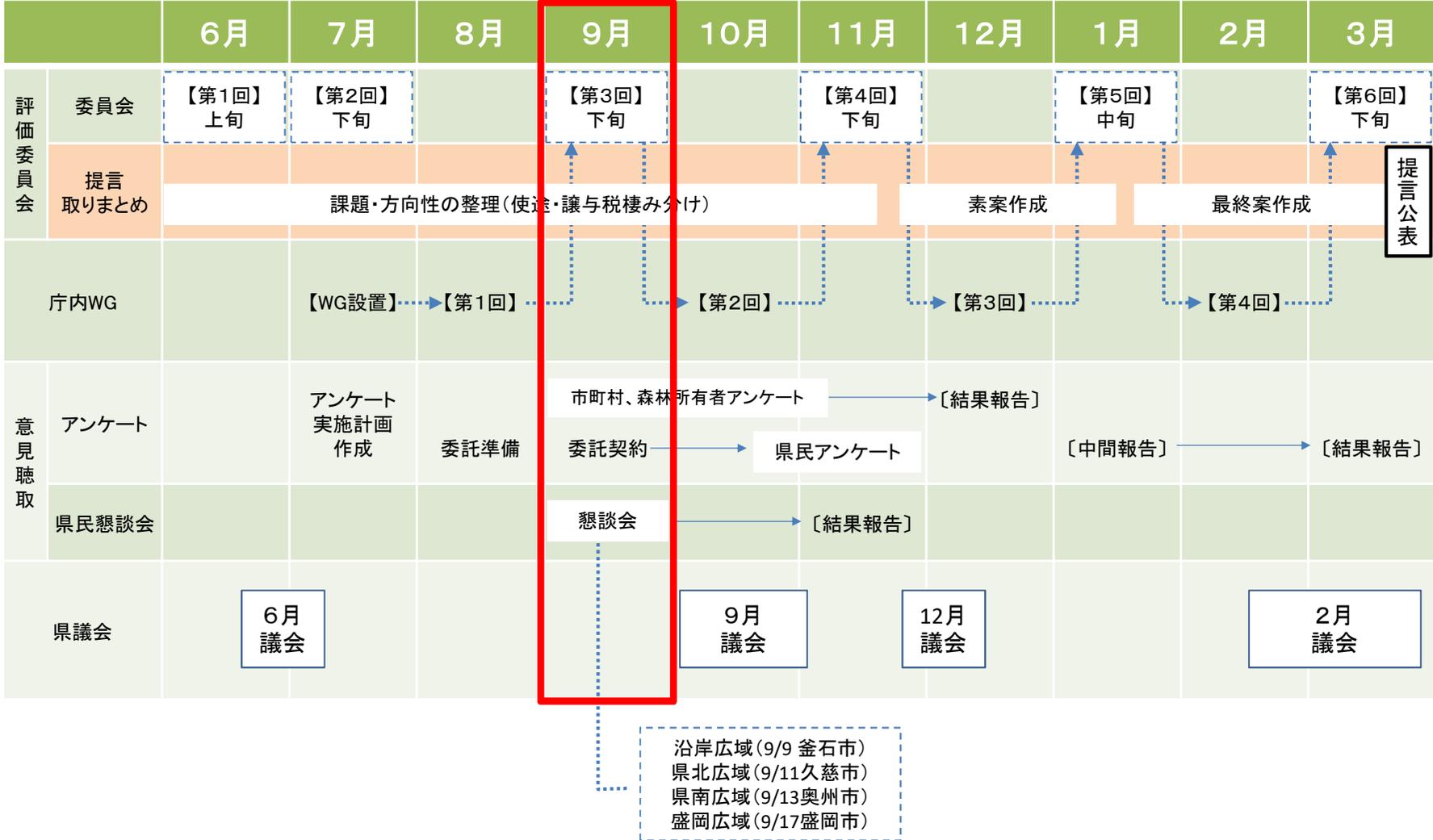
1 委員 10名

2 任期 令和5年4月1日～令和6年11月13日

第3回いわての森林づくり県民税事業評価委員会 県関係出席者名簿

役 職 等	氏 名	備 考
農林水産部 林務担当技監	工 藤 亘	
林業振興課 総括課長	高 橋 幸 司	
技術主幹兼振興担当課長	高 芝 俊 雄	
主任主査	金 澤 亨	
主 査	澤 口 陽 平	
主 事	木 村 直 樹	
主 事	目 黒 有 紀	
森林整備課 主任主査	上 部 明 広	
主任主査	西 澤 順 史	
主任主査	松 岡 幸 子	
森林保全課 特命課長	廣 田 紀代子	

【令和6年度】いわての森林づくり県民税あり方検討スケジュール



いわて森林づくり県民懇談会の結果について

1 開催趣旨

本県の県土の77%を占める森林を県民みんなの財産として将来に良好な状態で引き継いでいくため、県では、平成18年度から「いわての森林づくり県民税」を導入し、県民の皆様との御協力のもと、森林を守り育む取組を進めてきたところ。

この「いわての森林づくり県民懇談会」は、令和7年度に「いわての森林づくり県民税」が20年目を迎えることから、これまでの取組を踏まえて、県民の森林との関わりや森林整備・森林保全のあり方、新たな課題に対応した森林施策などを含め、「いわての森林づくり県民税」の今後のあり方について、広く県民や関係団体等の皆様から御意見を伺うために開催するもの。

2 日時・場所

会場	期日	時間	場所
沿岸広域	令和6年9月9日(月)	13:30~16:00	釜石地区合同庁舎大会議室
県北広域	〃 9月11日(水)	14:00~16:30	久慈市中央市民センター大集会室
県南広域	〃 9月13日(金)	14:00~16:30	奥州市江刺生涯学習センター研修室(204, 205)
盛岡広域	〃 9月17日(火)	14:00~16:30	岩手県公会堂21号室

3 参集者

県民、森林所有者、地域の森林づくり団体、林業関係団体・事業体、事業評価委員
市町村職員、振興局職員等

4 内容

- (1) いわての森林づくり県民税の取組の実績について(報告)
- (2) 本県の森林・林業を取り巻く状況や課題について(報告)
- (3) いわての森林づくり県民税の今後の方向性について(意見交換)

5 出席者数

67名(盛岡17名、県南15名、沿岸18名、県北17名)

6 主な意見

(1) 森林・林業の現状(課題)

森林・林業・木材産業の現状、高齢化・担い手不足の現状、病虫害・鳥獣害・気象災害等の現状、森林教育・普及啓発等の現状

(2) 現行制度に対する意見

森林整備に関する意見、協定締結の見直し、県民参加・森林教育等に関する意見

(3) 事業の拡充(次期対策の要望事項も含む)

森林環境譲与税との関係、制度周知、森林整備に関する事業の拡充、病虫害・鳥獣害・気象災害等に関する対策、事業実施主体の見直し、森林教育・普及啓発等の拡充

7 意見交換の概要

区 分	意 見
(1) 森林・林業の現状（課題）	<p>【森林・林業・木材産業の現状】</p> <p>① <u>伐採跡地への植栽が進んでいない</u>。カラマツでもいいので、植林してもらいたい。</p> <p>② 花粉の少ない苗木を多く作ってほしい。伐期に達したら、積極的に伐採し、<u>花粉の少ない木に更新</u>していくべき。</p> <p>③ <u>下刈後に除伐が行われず手遅れとなる森林</u>が増えている。</p> <p>④ 県民は山から恩恵を受けてきたが、山への関心が無い状況。<u>山主や住民に関心がないからすぐ荒れる</u>。</p> <p>⑤ 山に関心を持つ人が少ない一方、山を整備してほしいという声に十分応えることができていない。</p> <p>⑥ 「山を売ってほしい」「処分してほしい」といった声があり、山が森林所有者にとって価値を生み出していない。</p> <p>⑦ 立木価格が安い。林業の収益が川中で留保しているのではないか。山主に還元されなければならない。</p> <p>⑧ 岩手の林業従事者の所得は、全国に比べて低い。離職する人もあり、従事者の収入が低いままでは岩手からいなくなる。</p> <p>⑨ 労務単価が安い。森林作業の下請けでは単価が上がらない。</p> <p>⑩ 現在の木材需要は、チップかバイオマスが中心。機械を揃えた大手工場も厳しい状況。</p> <p>⑪ 木材は、景気が落ち込むと使われなくなる。海外では人口増、住宅需要増があるが、輸出も簡単にはいかない。燃やすだけでなく、高く使える方法があれば良い。</p> <p>⑫ 木材の出口で、公共施設、大きなスパンの積極的な需要を喚起できるような施策の展開をしてほしい。</p> <p>【高齢化・担い手不足の現状】</p> <p>① <u>若者が就業するが定着しない</u>。特に造林は重労働でつらい。</p> <p>② <u>後継者へのPRも進めていく必要がある</u>。</p> <p>③ <u>森林組合も人手不足</u>で森林整備をお願いしてもすぐに対応できない。</p> <p>④ 人手不足となるため土木・建設業等との異業種連携が必要。</p> <p>⑤ 地域の里山等を整備するため、若者に声をかけてもなかなか増えない。</p> <p>⑥ <u>遠方に住む森林所有者も高齢化</u>し、意向の確認がとれない森林が増えている。</p> <p>⑦ <u>高齢で後継者がいないため</u>、生産森林組合を解散した。</p>

	<p>【病虫害・鳥獣害・気象災害等の現状】</p> <p>① <u>ナラ枯れ被害が通学路にも広がっている。</u></p> <p>② <u>被害木で電線が切れて、停電が頻繁に発生する。</u></p> <p>③ <u>大雪でマツが折れ、県道・町道へ散乱する。</u></p> <p>④ シカ被害が多く、森林の更新が難しい。</p> <p>⑤ <u>森林整備が遅れ、クマやシカが街中に出没し、被害が増加。</u></p> <p>⑥ <u>大雨災害が頻発し、木が河川を流れて被害を及ぼす可能性</u> がある。</p> <p>【森林教育・普及啓発等の現状】</p> <p>① <u>山に入ることが難しくなり、子どもと森林で学ぶ機会が減少</u> <u>している。</u></p> <p>② <u>孫の世代に向けて、どういう森づくりをしていくのか、描け</u> <u>ていないのではないか。</u></p> <p>③ <u>若い人への教育が必要。</u></p> <p>④ <u>岩手には自然があるのにありがたみが感じられない。学校</u> <u>教育の中で森林と触れ合う機会が必要。</u></p> <p>【その他】</p> <p>① <u>森林所有者でも、自分の森林の状況が分かっていない。</u></p> <p>② <u>森林の境界がわからない。相談できる人材がほしい。</u></p> <p>③ <u>山林は境界確認が難しい。境界が分かっている人が存命の</u> <u>うちに国土調査を進めてほしい。</u></p> <p>⑤ <u>税金に頼らなくても、山はいいものだ、何とかしようという</u> <u>心、気持ちを奮い立たせるような施策が必要。</u></p>
<p>(2) 現行制度に対する意見</p>	<p>【森林整備に関する意見】</p> <p>① <u>森林所有者の意向や森林の状況により、間伐率2割程度の</u> <u>整備も対象としてほしい。</u></p> <p>② <u>奥地こそ水源地であり重要。奥地でも実施できるよう条件</u> <u>を緩和して欲しい。</u></p> <p>③ <u>手続きの簡素化やIT化が必要。簡素化等を通じてスピー</u> <u>ド感を持った申請ができれば実績は伸びる。</u></p> <p>④ <u>大きな林業事業者でなくとも新しい事業者や小さい事業者</u> <u>が事業主体になれるよう要件の緩和を要望する。</u></p> <p>⑤ <u>事業者の職員も減少しており、検査の負担を減らすように</u> <u>してほしい。</u></p> <p>⑥ <u>枯死木除去は、対象森林の要件をなくすべき。県民が危険に</u> <u>さらされないよう、早期に実施できるようにすべき。</u></p>

	<p>⑦ 人件費や燃料などの費用は高騰しており、必要な見直しをすべき。</p> <p>⑧ 森林組合は小さな森林は整備したがない。半農半Xのような主体を事業主体とすれば労務確保できるのではないか。</p> <p>⑨ 不在村所有者が多く相続人から同意を得るのが困難。固定資産税を納めている者の同意のみで十分ではないか。</p> <p>⑩ 事業主体と所有者の相談に活用するため、単価や積算方法が公表されればよい。</p> <p>【協定締結の見直し】</p> <p>① <u>20年間の協定がネック</u>になり同意が得られにくい。</p> <p>② <u>協定は5～10年</u>くらいにしてほしい。</p> <p>③ 協定を結んだ所有者も亡くなっている人が増えている。</p> <p>④ 所有者と話をする、20年後はイメージできず事業化されないが、10年後だとイメージできる。</p> <p>【県民参加・森林教育等に関する意見】</p> <p>① ソフト事業実施のために、新規に立ち上げた団体は運営が大変。<u>人件費や運営費など対象を拡大</u>すべき。</p> <p>② 森林環境教育では、<u>講師の事前準備に時間を要</u>するため、必要な経費は、支援対象とすべき。</p> <p>③ 木育に関する事業もしっかりと進めてほしい。</p> <p>④ 県民参加では100万円が上限。一方、事業の実施に必要な作業道だけで100万円必要な場合もある。<u>ソフト部分とハード部分に分けて支援</u>できるようにすべき。</p> <p>⑤ ソフト事業で机や椅子を導入するのは県民税の目的からしてどうなのか。<u>山を守るべき人達の支援</u>に使われるべき。</p> <p>⑥ 森林の整備に携わっている団体が有効に活用できるよう、継続して整備している森林も補助対象としてほしい。</p>
<p>(3) 事業の拡充 (次期対策の要望 事項も含む)</p>	<p>【森林環境譲与税との関係】</p> <p>① 県民税と森林環境譲与税の<u>すみ分け</u>ができていなければ継続に賛成する。</p> <p>② 国と県から2,000円徴収されるが、<u>納付している方</u>の実感があまり無い。</p> <p>③ 一般市民からすると、<u>すみ分けの考え方は分かりにくい</u>。考え方を明確にする必要がある。</p> <p>④ 県の独自課税という意味で、自由度の高い<u>県民が納得する事業</u>を実施すべき。</p> <p>⑤ 譲与税に無いメニューとし、森林所有者を奮い立たせるよ</p>

うな使い方としてほしい。

【制度周知】

- ① 納税していることや取組内容を知らない人が多いので、制度周知の強化が必要。
- ② 県民税の取組が環境を守っているともっとPRすべき。

【森林整備に関する事業の拡充】

- ① 目的に応じ、間伐した山に再度手をかけるため、間伐率 20～30%で2回目の間伐を実施してはどうか。
- ② 現在の事業で間伐した森林が10～20年で利用可能になってくるところから列状間伐を導入してみてもどうか。
- ③ 下刈り後に手入れが遅れている森林が増加しており、16年生未満の森林における除伐、つる伐り、枝打ち等を対象としてほしい。
- ④ 人工林をしっかりと整備して、再生林につなげることが重要であり、あまり用途を増やし過ぎるべきではない。
- ⑤ 伐採後に放置された山へ重点的に植栽することが必要。
- ⑥ 森林の整備には作業道の新設も重要であり対象とすべき。
- ⑦ 気象災害で被災した林道整備などに活用してはどうか。
- ⑧ 混交林誘導伐は人工林中心だが、広葉樹を活用できる事業もあればよい。
- ⑨ 広葉樹を植栽してはどうか。
- ⑩ 上層木も広葉樹となるように混交林化してほしい。
- ⑪ 里山にも花粉症対策をしてほしい。

【病虫害・鳥獣害・気象災害等に関する対策】

- ① ナラ枯れ対策を充実してほしい。
- ② アカマツ広葉樹林化が被害先端地域でも実施できるようにしてほしい。
- ③ アカマツ広葉樹林化で、伐採後にカラマツを植栽することで樹種転換してはどうか。
- ⑤ シカ、クマ、イノシシの対策をぜひお願いしたい。
- ⑥ 荒れた森林の整備に重きを置くべきで、シカ被害は国・県の予算で取り組むべき。
- ⑦ 災害が多いので、土砂災害の未然防止につながるものや温暖化防止に関連するものとしてほしい。
- ⑧ 大雨災害時に河川で下流に被害を及ぼす流木が生じないような対策が必要。
- ⑨ 道路への風倒木の処理等も対象にしてほしい。森林所有者以外の目にも見える内容となるのではないか。

【事業実施主体の見直し】

- ① 自伐林家や個人事業主等も事業実施主体となるよう対象を拡大してほしい。
- ② 多くの事業者が協力して事業主体になれるよう、特に小面積は細やかな調整ができる事業体が行えるよう支援が必要。
- ③ 外国人の技能実習生が下刈りなどの仕事も担う可能性がある。全国に先駆けて、外国人向けの講習会が必要。

【森林教育・普及啓発等の拡充】

- ① 子ども達が森林の役割を知る機会の創出に使ってほしい。
- ② 教育関係者が使いやすい映像資料等を作ってほしい。
- ③ 児童・生徒等にチェーンソーや林業機械を見せる機会を増やしてほしい。
- ④ 林業で仕事する人の魅力を発信すべき。
- ⑤ 若い担い手の育成に活用することが望ましい。
- ⑥ 森林教育は、NPO等に委託する方法もあるのではないか。
- ⑦ 建材として木材が使われれば、森林の整備につながる。県産材木材利用のPRをお願いしたい。

【その他】

- ① 住宅地等にある森林へのサポートも必要。
- ② 蜂対策として、エピペンの携行費用を対象としてほしい。
- ③ 里山の専門員を配置してほしい。
- ④ ブランディング等により森林の価値を高める取組を進めてほしい。
- ⑤ 広葉樹を高く売る戦略を考えてほしい。
- ⑥ 県産木材を使っていくために必要な大工の育成が必要。
- ⑦ 二酸化炭素の排出量抑制など県民税事業における共通の目安を見せることができればよい。
- ⑧ 耕作放棄地への植栽により森林にしてほしい。
- ⑨ 個人事業者の資金調達に支援してほしい。
- ⑩ 事業の要件を見直すことも必要だが、保安林の施業要件も変えてほしい。
- ⑪ 国土調査が未了の地域におけるサポートがほしい。